VPNルーター

CentreCOM® AR260S

取扱説明書

Allied Telesis

安全のために

必ずお守りください





警告 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により、**死亡や大けが**の原因となります。

分解や改造をしない

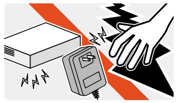
本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

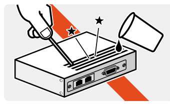
感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物は入れない　水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

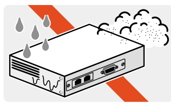
内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

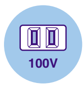
内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

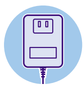
本製品に付属の AC アダプターは 100V で動作します。



電圧注意

付属の AC アダプター以外で使用しない

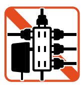
火災や感電の原因となります。
必ず、付属の AC アダプターを使用してください。



付属品を使え

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

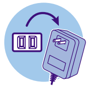
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを抜け

AC アダプターのコードを傷つけない

火災や感電の原因となります。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度 80%以下の環境でご使用ください）
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- 腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

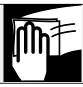
本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはていねいに

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないでください。

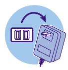




お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、堅く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな　中性洗剤使用　堅く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー類不可

はじめに

この度は、「CentreCOM AR260S」をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

内容物をご確認ください

パッケージの内容は、下記の通りです（下記以外に添付紙が付属している場合があります）。万一不足するものがございましたら、お手数ですがご購入の販売店まで、お問い合わせをお願いいたします。

- CentreCOM AR260S本体（1 台）
- 専用 AC アダプター（1 個）
- UTP ケーブル（1 本、1.5m、カテゴリー 5、ストレートタイプ）
- ゴム足（4 個）
- マグネット（4 個）
- マグネット取り付けネジ（4 個）
- 縦置きスタンド（1 個）
- 取扱説明書（1 冊、本書）
- CD-ROM（1 枚）
- シリアル番号シール（2 枚）
- 保証書（1 枚）

注意　本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望まれます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

本書について

本書は、安全上の注意、各部の名称や働き、設置や配線、プロバイダーへの接続のための設定など、本製品を使用する上で最も基本的なことを説明したマニュアルです。

本製品を正しくご使用いただくため、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また、必要なときにいつでもご覧いただくために、大切に保管していただきますようお願いいたします。

付属のCD-ROM について

付属の CD-ROM には、以下のマニュアルや情報が収録されております。CD-ROM をコンピューターのCD-ROM ドライブに挿入すると､自動的に HTML ファイルが表示されますので、表示内容に従って操作してください。

- リファレンスマニュアル
  本製品が表示する Web 画面の各項目や、項目が取るパラメーターの詳細が記載されています。本書の内容を含む、本製品の機能に関する完全な情報が記載されています。
- 取扱説明書
  本書のPDF 版が収録されています。

アイコンについて

このマニュアルで使用しているアイコンには、次のような意味があります。

アイコン	意 味	説 明
ヒント	ヒント	知っていると便利な情報、操作の手助けになる情報を示しています。
注意	注意	物的損害や使用者が傷害を負うことが想定される内容を示しています。
警告	警告	使用者が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示しています。
参照	参照	関連する情報が書かれているところを示しています。

グローバル IP アドレスなどについてのお断り

本書は、説明のために以下のような架空の文字列、グローバル IP アドレスを使用します。以下のグローバル IP アドレスは、お客様の環境でご使用いただくことはできません。実際の設定では、お客様の環境におけるものに適宜読み替えていただけますようお願い申し上げます。

- PPP 接続のためのユーザー名として「user@isp」
- PPP 接続のためのパスワードとして「jK5H&i2pz」
- プロバイダーから与えられたコンピューター名（DHCP）として「zy1234567-a」
- プロバイダー側のDNS サーバーのアドレスとして「87.65.43.21」「87.65.43.22」
- プロバイダー側のルーターとして「123.45.67.1」
- プロバイダーから取得したグローバル IP アドレスとして「123.45.67.89」

目次

1 製品概要

1.1 製品概要

本製品は、企業の小規模拠点の接続や SOHO ネットワーク構築に最適な VPN 対応の高速ブロードバンドルーターです。VPN 処理のためのプロセッサーの搭載により、セキュアーな高速 VPN 環境を提供します。

- FTTH や xDSL 、CATV などのブロードバンド系サービスに対応（PPPoE、DHCP、固定 IP 設定）
- IPsec（3DES、DES）による VPN
- ステートフル・インスペクション型ファイアウォール
- DoS アタック・プロテクション
- パケットフィルタリング、URL フィルター
- NAT/ENAT、バーチャルサーバー機能
- SNTP クライアント、ログや統計情報の表示、SNMP エージェント
- DHCP サーバー / クライアント機能
- PPPoE マルチセッションに対応（2 セッション）
- Web ブラウザーによる簡単設定

1.2 各部の名称と機能

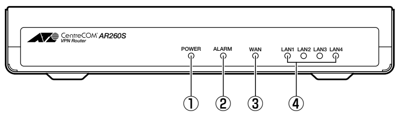


図 1.2.1 AR260S 前面

① **POWER LED**（緑）

点灯	電源が供給されています。
消灯	電源が供給されていません。

② **ALARM LED**（緑）

点灯	異常が発生しています（起動時の一時的な点灯は正常です。また、起動時の点灯から消灯への変遷は、起動の完了を示すものではありません）。
消灯	正常です。

また、本製品を工場出荷時設定に初期化するとき、電源スイッチ、リセットスイッチと組み合わせて使用します。

③ **WAN LED**（緑）
④ **LAN1 ～ 4 LED**（緑）

点灯	100Mbps または 10Mbps、Full Duplex または Half Duplex のいずれかでリンクが確立しています。
点滅	パケットの送受信が行われています。
消灯	リンクが確立していません。

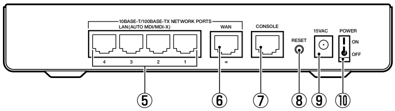


図 1.2.2 AR260S 背面

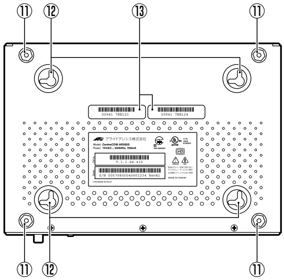


図 1.2.3 AR260S 底面

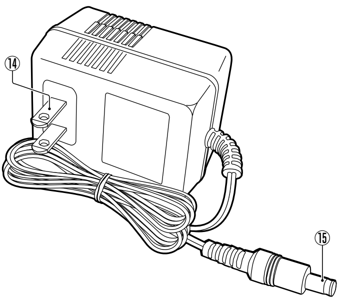


図 1.2.4 AC アダプター

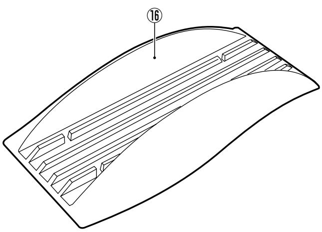


図 1.2.5 縦置きスタンド

⑤LAN ポート

LAN 側の 10BASE-T または 100BASE-TX に対応した イーサネットポート で（オートネゴシエーション、RJ-45)、1 ～ 4 の 4 つのポートがあります。各ポートとも、MDI/MDI-X 自動切替機能を持ち、ストレートまたは クロスのどちらのケーブルタイプでも使用することができます。

⑥WAN ポート

WAN側の 10BASE-T または 100BASE-TX に対応したイーサネットポートです（オートネゴシエーション、RJ-45)。このポートに ADSL モデム、ケーブルモデム、ONU などを接続します。MDI 仕様となっています。

⑦CONSOLE ポート（未サポート）

弊社メインテナンス用のコンソールポートです。
お客様はご利用になれません。

⑧リセットスイッチ

本製品を再起動するボタンです。また、電源スイッチ、ALARM LED を組み合わせた操作により、本製品を工場出荷時設定に初期化します。

参照 本書「A.4 工場出荷時設定への初期化」(p.18)

⑨電源入力ジャック

AC アダプターの出力プラグを接続するジャックです。

⑩電源スイッチ

本製品に供給される電源をオン、オフするためのスイッチです。

⑪ゴム足 / マグネット用くぼみ

ゴム足またはマグネットを取り付けるためのくぼみです。

⑫壁面設置穴

本製品を壁面に設置するためのダルマ穴です。

参照 本書「A.2 壁面設置穴仕様」(p.17)

⑬MAC アドレスラベル

MACアドレスを表記したラベルです（左が WAN 側、右がLAN 側）。

⑭AC プラグ

AC アダプターを電源コンセント（100VAC）に接続するためのプラグです。

⑮出力プラグ

AC アダプターを本製品に接続するためのプラグです。

⑯縦置きスタンド

本製品を縦に設置する際に使用するスタンドです。

2 設置

本製品は、次の 4 つの方法による設置ができます。

- ゴム足による設置（p.7）
- 縦置きスタンドによる設置（p.7）
- マグネットによる設置（p.7）
- 設置穴による壁面への設置（p.8）

本製品の設置を始める前に、必ず「安全のために」をよくお読みください。また、以下の点にもご注意ください。

設置場所に関する注意

- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような設置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 充分な換気のために、本製品の通気口をふさがないように設置してください。
- ゴム足や縦置きスタンドを使う場合は、傾いた場所や不安定な場所に設置しないでください。
- 本製品の上にものを置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 本製品は屋外ではご使用になれません。
- コネクターの端子にはさわらないでください。静電気を帯びた手（体）でコネクターの端子に触れると、静電気の放電により故障の原因となります。

2.1 ゴム足による設置

本製品を机の上などの水平な場所に、水平に設置する場合は、ゴム足（4 個）を本体底面の四隅のくぼんだ部分に貼り付けてください。ゴム足は、本製品への衝撃を吸収したり、本製品の滑りや設置面の傷つきを防止します。

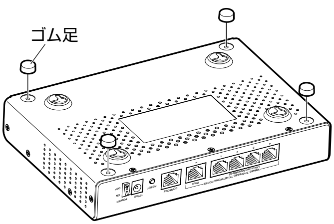


図 2.1.1 ゴム足の取り付け

注意 ゴム足を貼り付ける前に、貼り付ける部分の汚れをよく拭き取ってください。また、貼り直しは接着力を著しく弱めますので、ご注意ください。

2.2 縦置きスタンドによる設置

縦置きスタンドにより、本製品を垂直に立てて設置することができます。垂直に設置すると、設置に必要な面積を少なくすることができます。少ない設置面積により、不安定になりやすいので、必ず水平な安定した場所に設置してください。

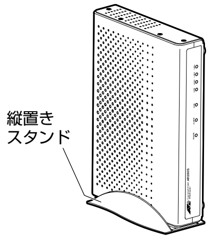


図 2.2.1 縦置きスタンドの取り付け

2.3 マグネットによる設置

付属のマグネットを使用すると、本製品を金属面に吸着させることができます。OA デスクの横などの金属面への設置に便利です。

マグネットの使用に関する注意

- OA デスクなどにマグネットで機器を取り付けたまま、機器をずらさないでください。被着面の塗装などに傷がつく恐れがあります。
- 設置面の状態によっては、充分なマグネットの吸着力を得られないことがあります。
- マグネットにフロッピーディスクや磁気カードなどを近づけないでください。磁気の影響により記録内容が消去される恐れがあります。
- マグネットをコンピューターやディスプレイなどの磁気の影響を受けやすい電子機器に近づけないでください。磁気の影響により、故障の原因となることがあります。
- 機器をマグネットで高所に取り付けないでください。落下により、ケガ、機器破損の恐れがあります。
- 取り付けの際は、機器やケーブルの重みにより機器が落下しないよう設置してください。ケガ、故障の原因になることがあります。
- 振動、衝撃の多い場所や不安定な場所に設置しないでください。落下により、ケガ、故障の原因となることがあります。

付属の固定ねじを使用して、マグネット（4 個）を本体底面の四隅のくぼんだ部分に取り付けてください。

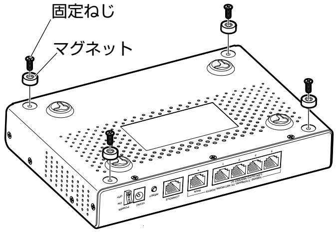


図 2.3.1 マグネットキットの取り付け

2.4 設置穴による壁面への設置

底面の設置穴により、本製品を壁面に取り付けることができます。ただし、取り付けのためのタッピングスクリューなどは付属しておりませんので、お客様にて別途ご用意くださいますようお願いいたします。

警告　壁面の構造に合わせて、適切な壁面への取り付け工事を行ってください。不適切な工事を行った場合、落下の原因となり危険です。専門の知識を持った工事業者に依頼することをお勧めいたします。

壁面設置に関する注意

- 設置面の状態、取り付けネジによっては、十分な強度を得られない場合があります。
- 本ブラケットを使用して、機器を壁面に取り付ける際は、ネジを使用して確実に固定してください。固定が不十分な場合、落下などによるケガ、機器破損の恐れがあります。
- 壁面への設置は、本製品やケーブルなどの重みにより機器が落下しないように確実に行ってください。ケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
- 機器を高所に取り付けないでください。落下によるケガや機器破損の原因となるおそれがあります。
- 振動や衝撃の多い場所、および不安定な場所には設置しないでください。落下によるケガや機器破損の原因となることがあります。
- 取り付け面によっては、機器の設置の際に、被着面の塗装などに傷がつく場合があります。

1 電源コンセントの位置や、AC アダプターの出力コードの長さ、UTP ケーブルの引き回し方法、壁面の構造上の強度などを考慮して、本製品の設置場所を決定してください。

2 本製品を取り付ける向きを決め、壁面に対して 2 本のタッピングスクリューを打つ工事を行います。

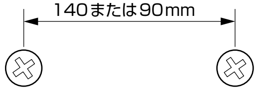


図 2.4.1 タッピングスクリューの間隔

- 製品の前面を上向きにして取り付ける場合、水平方向に 140mm の間隔でタッピングスクリューを打ってください。
- 製品の左側面を上向きにして取り付ける場合、水平方向に 90mm の間隔でタッピングスクリューを打ってください。

参照　本書「A.2 壁面設置穴仕様」（p.17）

3 本製品底面に、ゴム足またはマグネットが取り付けられている場合は、取り外してください。

4 取り付け向きにおける、本製品底面の上側の 2 つのダルマ穴を、壁面のタッピングスクリューの頭に通し、穴の細い部分までずらして固定してください。

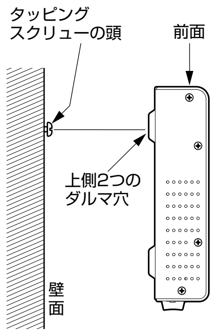


図 2.4.2 ダルマ穴をスクリューの頭に通す

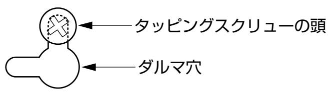


図 2.4.3 細い部分までずらして固定

3 配線

図 3.0.1に基本的なネットワーク構成を示します。図 3.0.1をご覧になり、以下の手順で機器の接続を行ってください。

警告 雷が発生しているときは、本製品の設置や、ケーブルの配線を行わないでください。落雷により感電する恐れがあります。

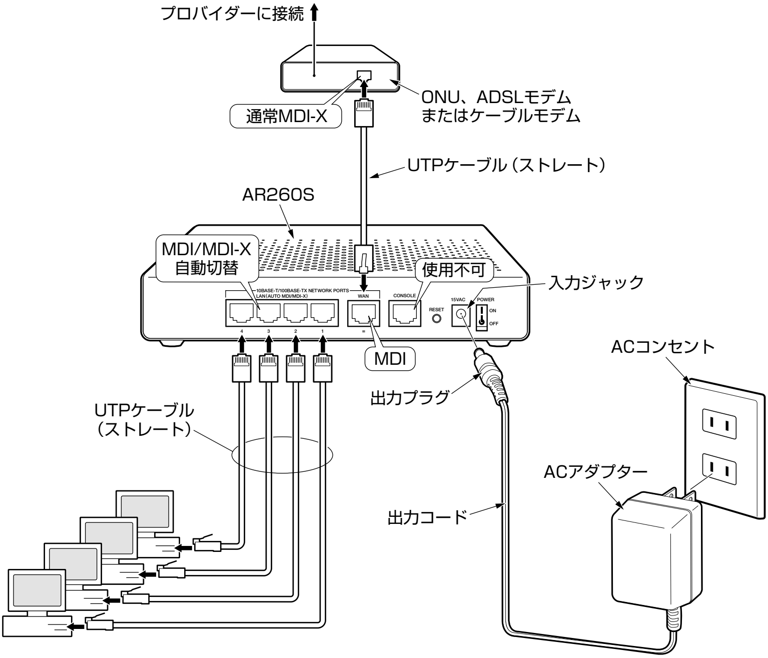


図3.0.1 基本的なネットワーク構成

準備

- 以下の手順は、回線からONU（Optical Network Unit）、ADSLモデムまたはケーブルモデムまでの工事が完了しているものとして説明します。
- 本製品に接続するコンピューターでTCP/IPプロトコルが使用できるようにしておきます。

参照 本書「A.5 コンピューターの設定」（p.18）

- 適切な長さの UTP ケーブルを必要な本数だけご用意ください。
  - 100BASE-TXの場合
    カテゴリー5以上、最長 100m
  - 10BASE-Tの場合
    カテゴリー3以上、最長 100m

ONU、ADSL モデム、ケーブルモデムの接続

1. UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、WAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
2. UTP ケーブルのもう一端を、ONU、ADSL モデムまたはケーブルモデムに接続してください。

コンピューターの接続

1. UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、LAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。
2. UTP ケーブルのもう一端を、コンピューターのネットワークポートに接続してください。

3 手順 1、手順 2 を繰り返し、すべてのコンピューターを本製品に接続してください。

AC アダプターの接続

1 AC アダプターの出力プラグを、本製品の入力ジャックに接続してください。

2 AC アダプターの AC プラグを AC コンセントに接続してください。

カスケード接続

本製品には、4 台までのコンピューターを接続できますが、更に多くのコンピューターを接続したい場合は、スイッチやHUB をカスケード接続することができます。

1 UTP ケーブル先端の爪部分を下側に持ち、任意のLAN ポートに挿入して、カチッと音がするまで差し込んでください。

2 UTP ケーブルのもう一端を、カスケード接続するスイッチまたは HUB の任意のポートに接続してください。

4 本製品の設定

図 4.0.3、図 4.0.5 に個人向けの端末型インターネット接続のネットワークの模式図を示します。この模式図にしたがい、「セットアップウィザード」を使用した本製品の設定手順を説明します。

参照 ファイアウォールや VPN などの高度な設定については、CD-ROM に収録の「リファレンスマニュアル」をご覧ください。

設定の方針

- ファイアウォールを有効にし、外部からの不正アクセスを遮断しつつ、内部からは自由にインターネットへのアクセスができるようにします。
- ENAT 機能を利用して、LAN 側ネットワークのプライベート IP アドレスを、プロバイダーから与えられたグローバル IP アドレスに変換します。これにより、LAN に接続された複数のコンピューターからインターネットへの同時アクセスが可能となります。
- DHCP サーバー機能を有効にし、LAN に接続されたコンピューターに IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNS サーバーアドレスの情報を提供します。
- DNS リレー機能を有効にし、LAN 側のコンピューターからの DNS リクエストを、プロバイダーの DNS サーバーに転送します。前述のDHCP サーバーの設定により、LAN 側のコンピューターに対しては、本製品自身の IP アドレスを提供します。

設定

1 AR260S の電源スイッチをオンにしてください。

2 コンピューターを起動してください。

参照 あらかじめ「コンピューターの設定」(p.18)を実施しておく必要があります。

3 Windows 版の Internet Explorer (Ver.6 以上)*1 を起動し、アドレスに「http://192.168.1.1」と入力して「移動」をクリックしてください。



図 4.0.1 本製品へのアクセス

4 次のダイアログボックスが表示されたら、「ユーザー名」に「manager」、「パスワード」に「friend」と入力し、「OK」をクリックしてください。

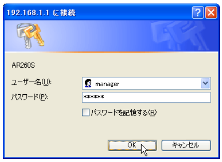


図 4.0.2 本製品へのログイン

ヒント ここで使用するユーザー名「manager」、パスワード「friend」は、プロバイダーから提供されるものではありません。

*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer Ver.6 以上をご使用ください。

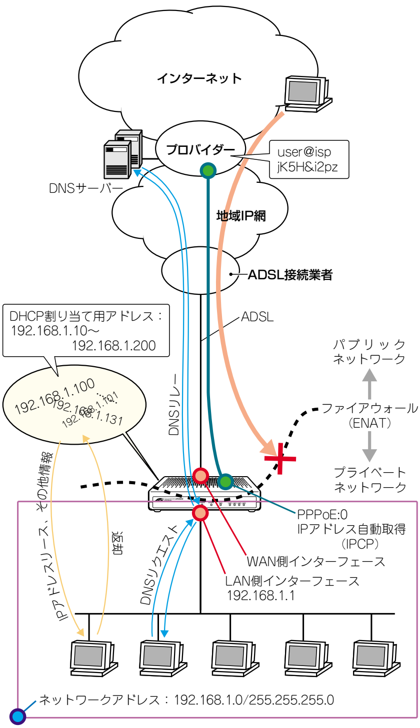


図4.0.3 PPPoEによる接続の模式図

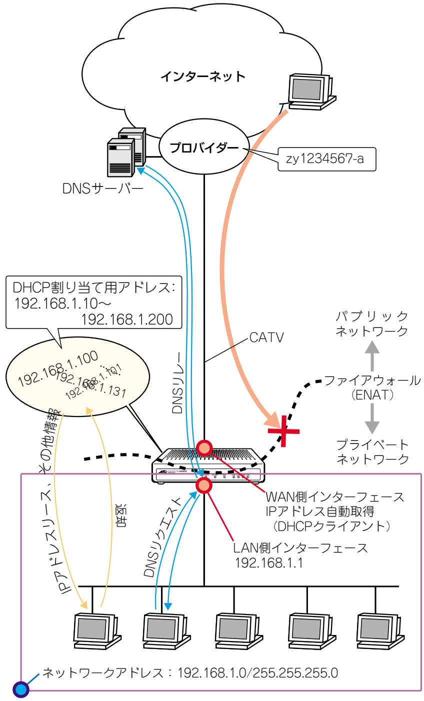


図 4.0.5 Ethernet による接続の模式図

5「セットアップウィザード」が開始されます。「次へ」をクリックしてください。

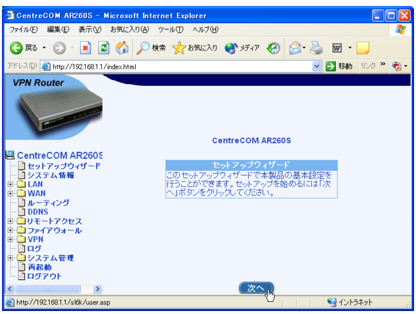


図4.0.4 セットアップウィザードの開始

●管理者パスワード

6 管理者（manager）の初期パスワードを変更します。「現在の管理者パスワード」に「friend」を入力し、「新しいパスワード」と「パスワードの確認」に新たなパスワードを入力してください。入力を終えたら「適用」をクリックしてください。更に「次へ」をクリックしてください。

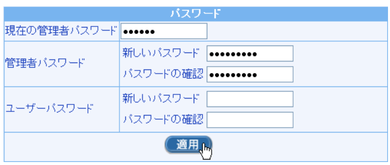


図 4.0.6 管理者のパスワードの変更

注意 初期パスワードのまま運用しないでください。セキュリティーホールとなる可能性があります。

●SNMP

7 SNMP マネージャーに提供する情報を設定します（デフォルトでは SNMP エージェントは「無効」です）。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。



図 4.0.7 システム情報（SNMP）

●時間の同期

8 現在の「日付」、「時刻」を入力し、「適用」をクリックしてください。日本の「タイムゾーン」は「GMT+9:00」です。時刻を同期するサーバーとして、あらかじめ 5 か所の実存する SNTP サーバーが設定されていますが、必要であれば変更してください。



図 4.0.8 時間の同期

以上の設定が完了したら、「次へ」をクリックしてください。

ヒント　ログの管理のためには、本製品が正確な時間を保持している必要があります。時刻を SNTP サーバーに同期する場合は、「システム管理」の「サービスの有効 / 無効」で「SNTP」を「有効」にしてください。また、本製品を再起動すると、保持時間は「2000 年 1 月 1 日 0 時 0 分 0 秒」に戻ります。

●LAN 側インターフェース

9 LAN 側インターフェースの IP アドレス、サブネットマスクを設定します。デフォルトは「192.168.1.1」、「255.255.255.0」です。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。



図 4.0.9 LAN 側インターフェースの設定

●DHCP サーバー

10 DHCP サーバーの設定を行います。デフォルトでは「192.168.1.10 ～ 192.168.1.200」の IP アドレスがプールされています。変更が不要であれば、「次へ」をクリックしてください。



図 4.0.10 DHCP サーバーの設定

ヒント　「システム管理」→「サービスの有効 / 無効」で「DHCP サーバー」のサービスを停止できます。

11 WAN 側インターフェースを設定します。「接続モード」で「PPPoE」を選択した場合は、手順 12 に進んでください。「DHCP」を選択した場合は、手順 13 に進んでください。

● **WAN 側インターフェース（PPPoE）**

12 フレッツ ADSL 、B フレッツなど、PPPoE を使用するプロバイダーとの接続は､｢接続モード｣で｢PPPoE｣を選択します。

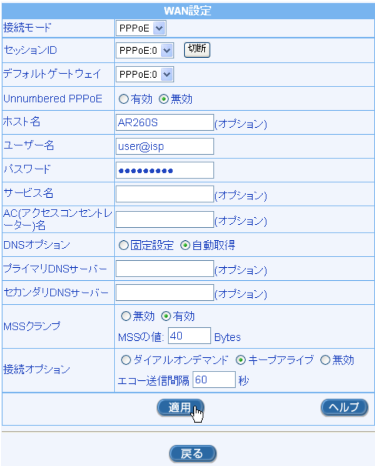


図 4.0.11 PPPoE の設定の例

- 接続モード：｢PPPoE｣
- セッション ID :｢PPPoE:0｣を選択してください。
- デフォルトゲートウェイ：｢PPPoE:0｣ を選択してください。
- 個人向けのご契約の場合､Unnumbered PPPoE：｢無効｣ を選択してください。
- ホスト名：プロバイダーから指定されたホスト名を入力してください。
- ユーザー名：プロバイダーから指定されたユーザー名を入力してください。
（例）｢user@isp｣
- パスワード：プロバイダーから指定されたパスワードを入力してください。
（例）｢jK5H&i2pz｣
- サービス名：プロバイダーから指定されたサービス名を入力してください。指定されなかった場合は、空欄のままにしてください。
- AC（アクセスコンセントレーター）名：プロバイダーから指定された AC 名を入力してください。指定されなかった場合は、空欄のままにしてください。
- DNS オプション：｢自動取得｣（デフォルト）を選択すると､プロバイダーから自動取得した DNS サーバーアドレスを使用します。｢固定設定｣ を選択すると、次の ｢プライマリ DNS サーバー｣ ｢セカンダリ DNS サーバー｣に入力したアドレスを使用します。
- プライマリ DNS サーバー､セカンダリ DNS サーバー：前述の ｢DNS オプション｣ を ｢固定設定｣ にした場合、これらの欄に DNS サーバーのアドレスを入力します。
- MSS クランプ：通常は ｢有効｣､MSS の値 ｢40｣ Bytes のままご使用ください。
- 接続オプション：通常は ｢キープアライブ｣（切断が発生したら自動的に接続する）、エコー送信間隔 ｢60｣ 秒のままご使用ください。

各項目の入力を終えたら､｢適用｣ をクリックしてください。

｢適用｣ をクリックして暫くすると､｢現在の設定｣ が Web 画面の下の方に表示されます（表示画面が狭い場合はスクロールしてください）。

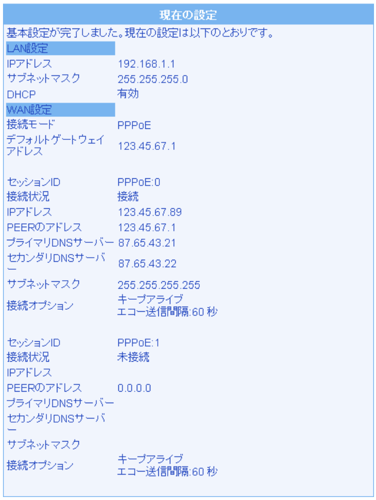


図 4.0.12 PPPoE の接続状況の例

手順 14 に進んでください。

●WAN 側インターフェース（DHCP）

13 Yahoo!BB、J-COM など、DHCP を使用するプロバイダーとの接続は、「接続モード」で「DHCP」を選択します。

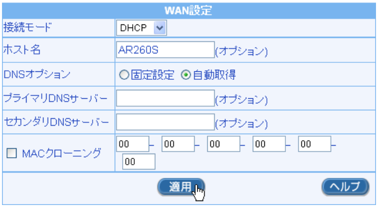


図 4.0.13 DHCP クライアントの設定の例

- 接続モード：「DHCP」
- ホスト名：プロバイダーから指定されたコンピューター名（ホスト名）を入力してください。（例）「xy1234567-a」
- DNS オプション：「自動取得」（デフォルト）を選択すると、プロバイダーから自動取得したDNSサーバーアドレスを使用します。「固定設定」を選択すると、次の「プライマリ DNS サーバー」「セカンダリ DNS サーバー」に入力したアドレスを使用します。
- プライマリ DNS サーバー、セカンダリ DNS サーバー：前述の「DNS オプション」を「固定設定」にした場合、これらの欄に DNS サーバーのアドレスを入力します。
- MAC クローニング：通常は「チェックなし」のままご使用ください（WAN 側の MAC アドレスとして、本製品本来のMAC アドレスを使用します）。
  「チェックを入れる」と、WAN 側のMAC アドレスとして、この欄に入力した MAC アドレスを使用します（MAC アドレスによって接続を管理しているプロバイダーとご契約で、これまで運用してきた他のルーターを本製品に変更するような場合に使用すると便利です）。

各項目の入力を終えたら、「適用」をクリックしてください。

「適用」をクリックして暫くすると、「現在の設定」が Web 画面の下の方に表示されます（表示画面が狭い場合はスクロールしてください）。



現在の設定	
基本設定が完了しました。現在の設定は以下のとおりです。	
LAN設定	
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCP	有効
WAN設定	
接続モード	DHCP
デフォルトゲートウェイアドレス	123.45.67.1
プライマリDNSサーバー	87.65.43.21
セカンダリDNSサーバー	87.65.43.22
接続状況	接続
IPアドレス	123.45.67.89
サブネットマスク	255.255.255.0
MACクローニング	無効

図 4.0.14 DHCPクライアントの接続状況の例

手順 14 に進んでください。

●AR260S からのログアウト

14 画面左のメニューから「ログアウト」をクリックし、次の画面が表示されたら「適用」をクリックしてください。

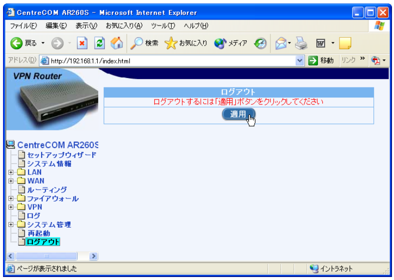


図 4.0.15 AR260S からのログアウト

15 「はい」をクリックしてください。

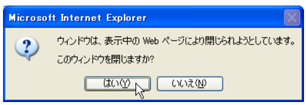


図 4.0.16 ログアウトの確認

●接続の確認

16 インターネットにアクセスできるか確認してください。コンピューターの画面で Web ブラウザーを起動し、目的の URL を指定します。

5 トラブルシューティング

設定画面がうまく表示されません

- Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.6 以上を使用してください。
- 「A.3 JavaScript の有効化」（p.17）をご覧になり Internet Explorer の JavaScript 機能を有効にしてください（通常、初期設定では有効になっています）。

A 付録

A.1 製品仕様

表 A.1.1 ハードウェア仕様

準拠規格	
IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX、	
電源部	
定格入力電圧	AC100V
入力電圧範囲	AC90-110V
定格周波数	50/60Hz
最大入力電流（実測値）	0.13A
平均消費電力	4.8W（最大 5.3W）
平均発熱量	17kJ/h（最大 19kJ/h）
環境条件	
動作時温度	0 ～ 40 ℃
動作時湿度	80% 以下（結露なきこと）
保管時温度	-20 ～ 65 ℃
保管時湿度	95% 以下（結露なきこと）
外形寸法	
205（W）× 142（D）× 35（H）mm（突起部含まず）	
質量	
520g（AC アダプター含まず）	
ポート	
WAN	10BASE-T/100BASE-TX × 1（MDI、オートネゴシエーション）
LAN	10BASE-T/100BASE-TX × 4（MDI/MDI-X 自動切替）
CONSOLE	弊社メインテナンス用（お客様はご使用になれません）
スイッチ部（LAN）	
スイッチング方式	ストア＆フォワード
MAC アドレス登録数	1K（最大）
MAC アドレス保持時間	約 600 秒
メモリー容量	
メインメモリー	32MByte
フラッシュメモリー	8MByte

表 A.1.1 ハードウェア仕様（続き）

適合規格	
EMI 規格	VCCI クラス B
安全規格	UL60950-1 CSA-C22.2 No.60950-1
電気通信事業法に基づく技術基準 JATE	
	D04-0056005

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

表 A.1.2 ソフトウェア仕様

ルーティングプロトコル
IPv4
ルーティング方式
スタティック
WAN サービス
ADSL、CATV、FTTH、広域イーサネットなどの各種のブロードバンド回線サービス
機能
PPPoE（2 セッション）
NAT、EnhancedNAT
DHCP（Server、Client）、DNS Relay
Firewall（Stateful Inspection、Inbound アクセス制御、Outbound アクセス制御、URL フィルター、セルフアクセス制御、DoS アタックフィルター）
VPN（IPsec（IKE/ISAKMP）、暗号（3DES、DES）、認証（SHA-1、MD5））
管理機能
Web ブラウザーによる設定
SNTP Client、SNMP エージェント、工場出荷時設定への初期化、設定のバックアップとリストア、ファームウェアの更新
統計情報（LAN、WAN、Firewall、VPN）
ログ（Web ブラウザーへの表示および Syslog サーバーへの送信、出力項目：アクセス、システム、Firewall、VPN）
推奨クライアントコンピューター接続数
20 台
スタティックルートの最大登録数
50 件
同時 VPN トンネル数
10

表 A.1.3 工場出荷時の設定内容

システム管理
サービスの有効 / 無効
有効となっているサービス：ファイアウォール、DNS リレー、DHCP サーバー、リセットスイッチによる初期化
無効となっているサービス：VPN、SNTP クライアント
設定管理 / パスワード
設定管理クライアント：指定なし
パスワード
管理者のユーザー名（変更不可）：manager
管理者パスワード：friend
一般ユーザーのユーザー名（変更不可）：guest
一般ユーザーのパスワード：guest
システム情報（SNMP エージェント）
システム名（sysName）：AR260S
システムロケーション（sysLocation）：空白（未設定）
連絡先（sysContact）：空白（未設定）
タイムゾーン設定
タイムゾーン設定
タイムゾーン：GMT+9:00
SNTP サービスの設定
登録済み SNTP サーバー：133.100.9.2、133.100.11.8、133.40.41.175、130.69.251.23、128.105.39.11
更新間隔 :60 分
SNMP
SNMP エージェント：無効
RO コミュニティー名：public
RW コミュニティー名：private
通知先アドレス（トラップホスト）：空白（未設定）
LAN
IP
IP アドレス：192.168.1.1
サブネットマスク：255.255.255.0
DHCP サーバーの設定
IP アドレスプール：192.168.1.10 ～ 192.168.1.200
サブネットマスク：255.255.255.0
リース期間：14 日
デフォルトゲートウェイ：192.168.1.1
DNS サーバー（プライマリー）：192.168.1.1
DNS サーバー（セカンダリー）：空白（未設定）
WINS サーバー（プライマリー）：空白（未設定）
WINS サーバー（セカンダリー）：空白（未設定）
WAN
PPPoE（PPPoE:0、PPPoE:1）（デフォルト）

表 A.1.3 工場出荷時の設定内容（続き）

Unnumbered PPPoE：無効
ホスト名：AR260S
DNS オプション：自動取得
MSS クランプ：有効、MSS の値：40Bytes
接続オプション：キープアライブ、エコー送信間隔 60 秒
DHCP
ホスト名：AR260S
DNS オプション：自動取得
ログ
Web 設定画面で表示される項目：アクセス、システム、ファイアウォール、VPN
Syslog サーバーへの送信：送信しない
ファイアウォール
Inbound アクセス
設定なし（不許可）
Outbound アクセス
すべて透過
URL フィルター
設定無し
アドバンスト設定
ステルスモード：無効
セルフアクセス設定：ICMP 0 LAN 側、TCP 80 LAN 側、UDP 161 LAN 側、UDP 162 LAN 側、UDP 53 LAN 側、TCP 10081 LAN 側、UDP 500 WAN 側
有効化されている DoS アタックフィルター：SYN Flooding、ICMP Verbose 無効化されている DoS アタックフィルター：Winnuke、MIME Flood、FTP Bounce、IP Unaligned Time-stamp、Sequence Number Prediction Check、Sequence Number Out-of-range Check Max IP Fragment Count：45 Minimum IP Fragment Size：512
VPN
設定なし

A.2 壁面設置穴仕様

タッピングスクリューの形状は、図 A.2.1 の壁面設置穴の寸法に適合したものを使用してください。

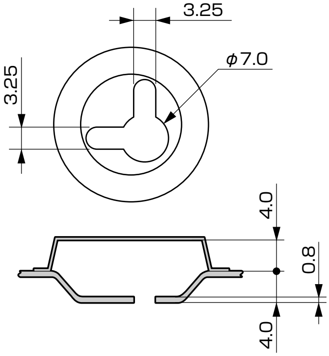


図 A.2.1 壁面設置穴の寸法

タッピングスクリューの頭の飛び出し寸法は図 A.2.2 の通りです。

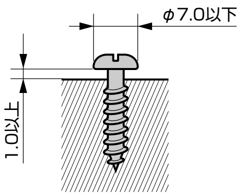


図 A.2.2 頭の飛び出し寸法

使用する壁面設置穴の組み合わせにより、次の 2 つの向きに設置できます。

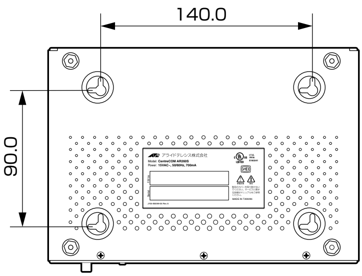


図 A.2.3 壁面設置穴の間隔

- 前面を上向きにした設置
  2 本の支持ポストを、水平方向に140mmの間隔でタッピングスクリューを打ってください。

- 左側面を上向きにした設置
  2 本の支持ポストを、水平方向に 90mm の間隔でタッピングスクリューを打ってください。

A.3 JavaScriptの有効化

Internet Explorer（Ver.6）に以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみ JavaScript を有効にすることができます（他のセキュリティー設定に影響を与えません）。

1 Internet Explorer のメニューから「ツール」→「インターネットオプション」をクリックしてください。

2「セキュリティ」タブをクリックしてください。
「信頼済みサイト」を選択しておき、「サイト」ボタンをクリックしてください。

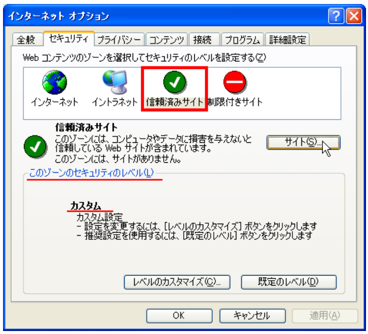


図 A.3.1 インターネットオプション

3「http://192.168.1.1/」を入力し、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認（http）を必要とする」のチェックを外してから、「追加」ボタンをクリックしてください。「Web サイト」欄に「http://192.168.1.1」が表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。「信頼済みサイト」ダイアログボックスが閉じます。

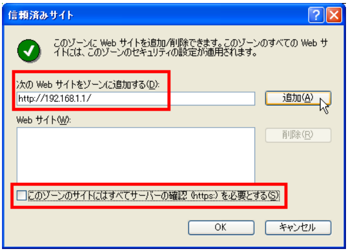


図 A.3.2 信頼済みサイトの登録

4「インターネットオプション」ダイアログボックス（図 A.3.1）の「このゾーンのセキュリティレベル」が「カスタム」になっている場合は、「レベルのカスタマイズ」ボタンをクリックして、「アクティブスクリプト」が「有効にする」になっていることを確認してください。

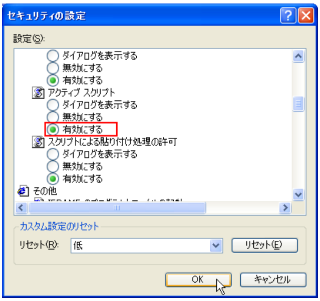


図 A.3.3 アクティブスクリプトは有効

5「インターネットオプション」ダイアログボックスの「OK」ボタンをクリックしてください。「インターネットオプション」ダイアログボックスが閉じます。

6 Internet Explorer を再起動してください。本製品に対してアクセスするときのみ、JavaScript が有効になります。

A.4 工場出荷時設定への初期化

本製品の設定画面を表示し、「システム管理」→「システムの設定」→「デフォルト設定」の順にクリックして、以後表示されるメッセージにしたがってください。

または、電源スイッチとリセットスイッチを以下の手順で操作してください。

1 本製品の電源スイッチをオフにして、5 秒以上待ってください。

2 本製品の電源スイッチをオンにして（ALARM LED 点灯）、約 5 秒経過したら短くリセットスイッチを押してください。

3 しばらくして、ALARM LED が一瞬消灯したら、リセットスイッチを短く押してください。
ALARM LED の消灯にタイミングを合わせることができなかった場合は、本製品の電源スイッチをオフにし、手順 1 から再実行してください。

ヒント　スイッチによる工場出荷時設定への初期化は、「システム管理」→「サービスの有効 / 無効」で禁止することができます。

参照　CD-ROM「リファレンスマニュアル」の「1.10 設定の初期化」

A.5 コンピューターの設定

本製品を利用したインターネット接続ができるように、お使いのコンピューターのネットワーク（TCP/IP）設定を行います。ネットワーク設定は接続するすべてのコンピューターで行う必要があります。また、あらかじめネットワークアダプターの設定がされている必要があります。

Windows XP の設定

1「コントロールパネル（クラシック表示）」の「ネットワーク接続」を開き、「ローカル エリア接続」をダブルクリックしてください。

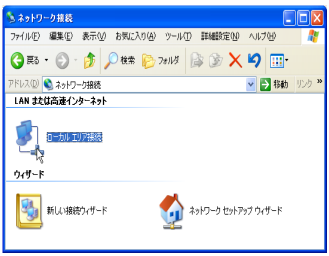


図 A.5.1 ネットワーク接続

2「ローカル エリア接続の状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.5.2 ローカルエリア接続の状態

3「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

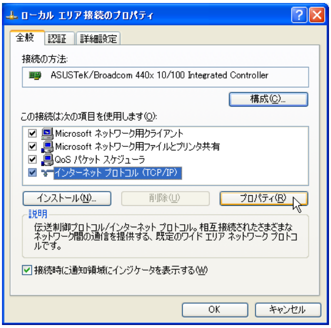


図 A.5.3 ローカルエリア接続のプロパティー

4「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

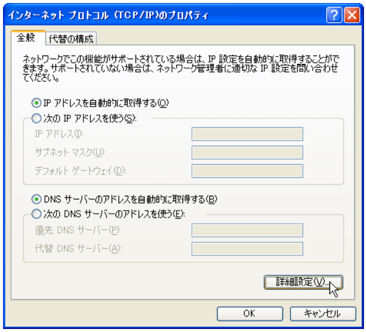


図 A.5.4 IP アドレスの設定

5「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

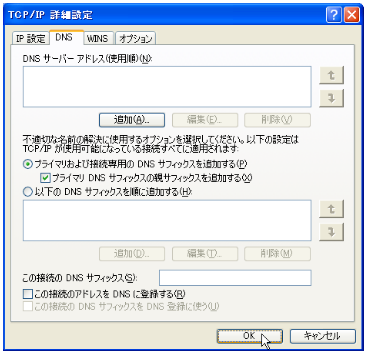


図 A.5.5 DNS の設定

ヒント プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

6「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピューターを再起動してください。

Windows 2000 の設定

1「コントロールパネル」の「ネットワークとダイヤルアップ接続」を開き、「ローカルエリア接続」をダブルクリックしてください。



図 A.5.6 ネットワーク接続

2「ローカルエリア接続状態」ダイアログボックスで「プロパティ」をクリックしてください。



図 A.5.7 ローカルエリア接続の状態

3「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスのリストの中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

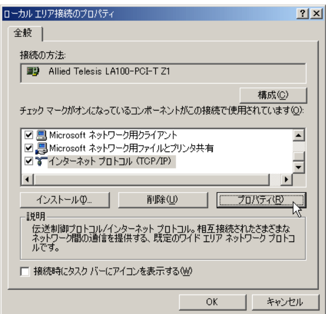


図 A.5.8 ローカルエリア接続のプロパティー

4「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、「詳細設定」をクリックしてください。

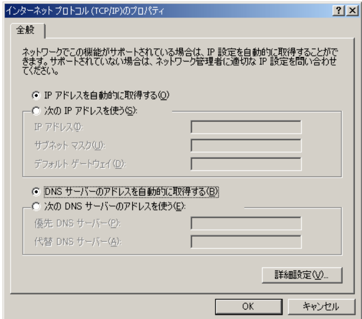


図 A.5.9 IP アドレスの設定

5「TCP/IP 詳細設定」ダイアログボックスで「DNS」タブを選択し、下部の「この接続アドレスを DNS に登録する」のチェックを外してください。

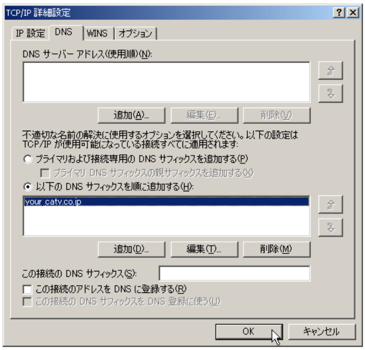


図 A.5.10 DNS の設定

ヒント プロバイダーからドメイン名も指定されている場合、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」を選択し、「追加」ボタンをクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

6「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピューターを再起動してください。

Windows Me の設定

1「コントロールパネル」の「ネットワーク」を開き、「現在のネットワークコンポーネント」リストの中から「TCP/IP —>（ネットワークアダプター名）」を選択し、「プロパティ」をクリックしてください。

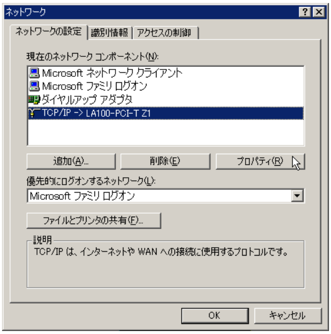


図 A.5.11 ネットワークの設定

2「TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスで「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択し、「OK」をクリックしてください。

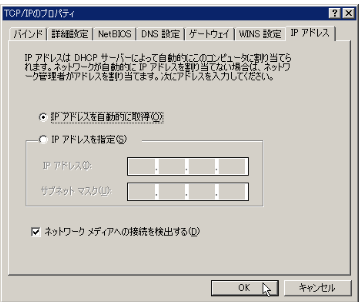


図 A.5.12 IP アドレスの設定

ヒント　プロバイダーからドメイン名も指定されている場合は、「TCP/IP のプロパティ」画面の「DNS 設定」タブをクリックし、「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」欄に指定されたドメイン名を入力して「追加」ボタンをクリックしてください。

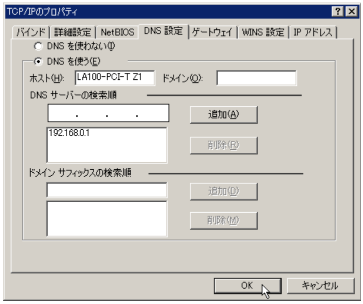


図 A.5.13 DNS 設定例

3「ネットワーク」ダイアログボックスで「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、コンピューターを再起動してください。

Mac OS X（10.3.4）の設定

1「システム環境設定」を起動して「ネットワーク」を選択し、「表示」ポップアップメニューから「ネットワークポート設定」を選んでください。「内蔵 Ethernet」以外のチェックボックスを全て外してください。

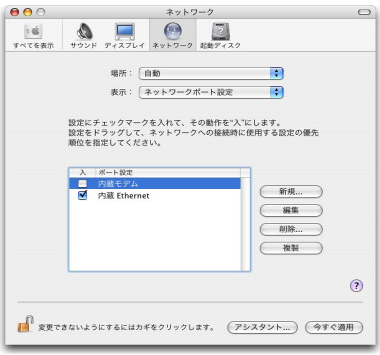


図 A.5.14 ネットワークポートの設定

ヒント　Mac OS X の初期設定は「内蔵モデム」を優先して使用するようになっていますが、本製品接続時には「内蔵 Ethernet」以外のポートは使用しません。

2「表示」ポップアップメニューから「内蔵　Ethernet」を選び、「TCP/IP」タグの「IPv4 を設定」ポップアップメニューから「DHCP サーバを参照」を選択してください。

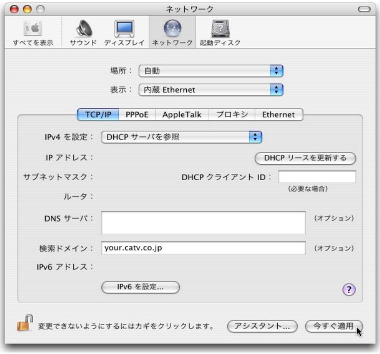


図 A.5.15 内蔵 Ethernet の設定

ヒント プロバイダーからドメイン名も指定されている場合「検索ドメイン」に指定されたドメイン名を入力してください。

3「今すぐ適用」をクリックしてください。

B　保証と修理

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel：フリーダイヤル 0120-860-332
携帯電話 /PHS からは：045-476-6218
月〜金曜日（祝・祭日を除く）
9:00 〜 12:00、13:00 〜 17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社はその責をいっさい負わないこととします。

C　ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

http://www.allied-telesis.co.jp/support/info/
Tel：フリーダイヤル 0120-860-772
携帯電話／PHS からは：045-476-6203
月〜金曜日（祝・祭日を除く）
9:00 〜 12:00、13:00 〜 18:00

C.1 サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合により弊社からの連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

一般事項

すでに「サポート ID 番号」を取得している場合、サポート ID 番号をお知らせください。サポート ID 番号をお知らせいただいた場合には、ご連絡先などの詳細は省略していただいてかまいません。

- サポートの依頼日
- お客様の会社名、ご担当者名
- ご連絡先
- ご購入先

製品について

- 製品名（AR260S）、製品のシリアル番号（S/N）、製品リビジョンコード(Rev) をお知らせください。製品のシリアル番号、製品リビジョンコードは、製品底面のバーコードシールに記入されています。
  （例）S/N 0047744990805087 Rev A1
- ファームウェアバージョンをお知らせください。ファームウェアバージョンは、Web ブラウザーで本製品の設定画面にアクセスし、「システム情報」をクリックすると表示されます。
  （例）AR260S.1.1.21a.410

回線について

- ご契約のインターネットサービスプロバイダー（ISP）名またはケーブルテレビ(CATV)名をお知らせください。

お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況でまたどのような頻度で発生するのかをできる限り具体的に（再現できるように）お知らせください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

おことわり

- 本書は、アライドテレシス株式会社が作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

Copyright ©2004 アライドテレシス株式会社

商標

CentreCOM はアライドテレシス株式会社の登録商標です。
Windows は、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。
Macintosh、Mac OS は、米国 Apple Computer Inc.の登録商標です。
その他、この文書に掲載しているソフトウェア、周辺機器、サービスの名称などは、各メーカーの商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

2004 年 6 月　Rev.A　初版

アライドテレシス株式会社
PN J613-M0099-10 Rev.A 040610